

平成26年3月期 決算説明会

2014年5月20日

阪和興業株式会社

- ・ **売上高**

鉄鋼事業や石油・化成品事業での商品市況の持ち直しと販売数量の増加などにより、売上高は前期比11.3%増の1兆6,825億3百万円となりました。

- ・ **当期純利益**

市況の回復による採算改善と特別損失の減少などにより、当期純利益は前期比67.3%増の78億96百万円となりました。

- ・ **配当**

期末配当は6円を予定しており、この結果、年間配当は12円となる見込みです。

経営成績(連結)

(単位:百万円)

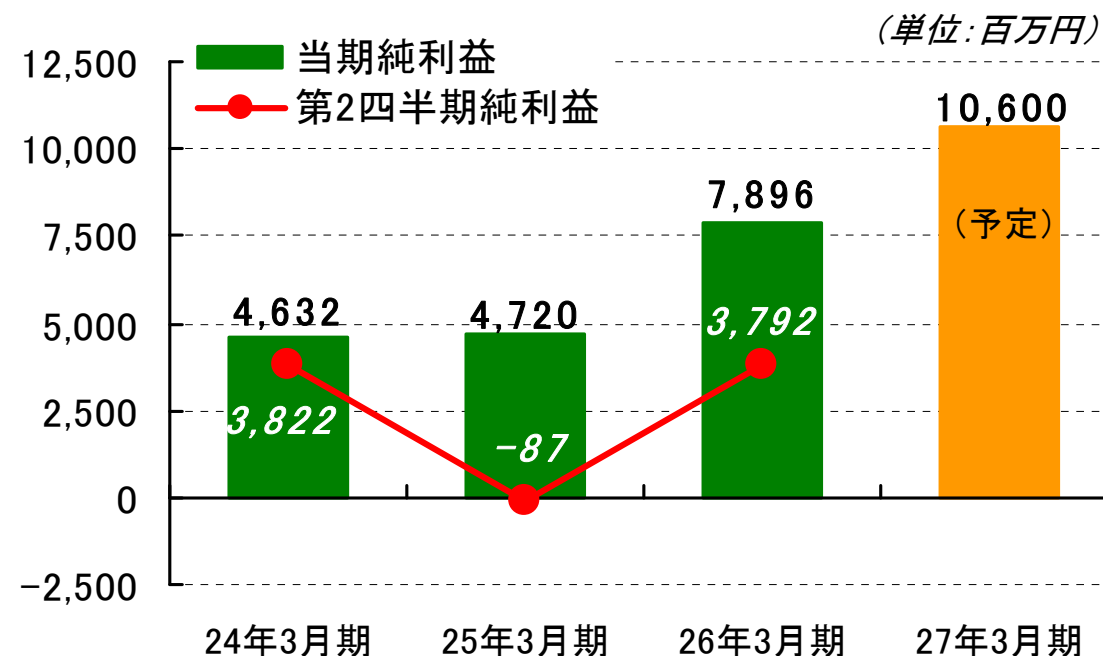
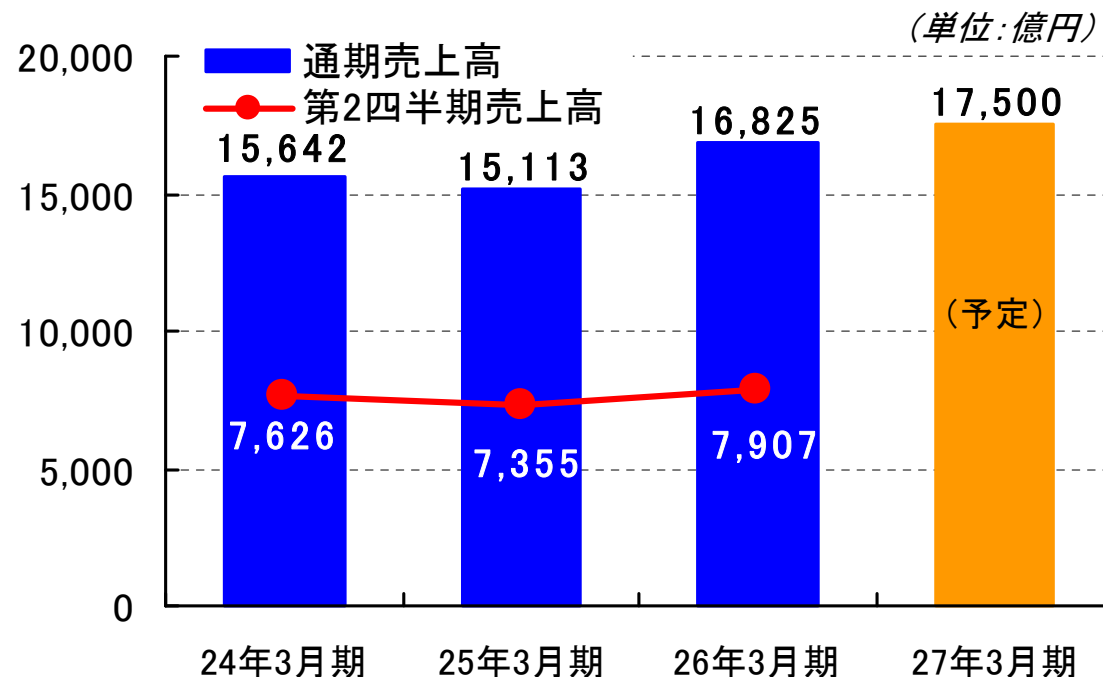
	当 期	前 期	増減比
売上高	1,682,503	1,511,324	+11.3%
売上総利益	51,365	44,762	+14.8%
販管費	35,112	32,271	+8.8%
営業利益	16,252	12,491	+30.1%
営業外損益	△1,555	△3,620	△57.0%
経常利益	14,698	8,871	+65.7%
特別損益	△709	△2,053	△65.4%
税引前純利益	13,988	6,817	+105.2%
法人税等	5,986	2,033	+194.2%
少数株主損益	105	62	+69.4%
当期純利益	7,896	4,720	+67.3%
包括利益	14,647	6,600	+121.9%

- 売上高**
 主に鉄鋼事業、石油・化成品事業の増収により、前期比11.3%の増加。
- 販管費**
 前期比8.8%増加。(内、新規連結影響4.3%)
 人件費+約18億円。
- 特別損失**
 海外子会社や関連会社の減損による投資有価証券評価損約8億円等を計上。
- 1株当たり純利益**
 38円11銭(+15円33銭)

米国経済は堅調、欧州経済も小康状態にあったが、中国や新興国経済は停滞した。

国内需要は堅調な製造業に加え、建設需要も増加したことから盛り上がりを見せている。

売上高は過去最高を記録し、純利益も市況回復による採算改善や特別損失の減少により回復したものの、営業利益、経常利益含め、利益率には改善の余地がある。



(単位:百万円)

	当期末	前期末	前期末比
総資産	593,351	552,908	+7.3%
流動資産	468,325	435,301	+7.6%
固定資産	125,025	117,607	+6.3%
負債	467,989	432,233	+8.3%
Net有利子負債	229,899	212,883	+8.0%
純資産	125,361	120,674	+3.9%
株主資本	120,733	117,088	+3.1%
その他の包括利益 累計額	1,875	1,143	+64.0%
少数株主持分	2,752	2,442	+12.7%

・総資産

売上高の増加に伴う売上債権や在庫の増加に加え、上場投資有価証券の価格上昇などにより、7.3%の増加。

・有利子負債

資金需要の増加などにより4.1%増加し、ネットDERも1.9倍に若干増加。

・純資産

当期純利益の積み上がりやその他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定の増加などにより、3.9%の増加。

自己資本比率 20.6%

($\Delta 0.8\text{pt}$)

1株当たり純資産

591円68銭(+21円18銭)

キャッシュ・フローの状況（連結）

(単位:百万円)

	当 期	前 期	増 減
営業活動による キャッシュ・フロー	343	19,380	△19,037
投資活動による キャッシュ・フロー	△5,244	△5,106	△138
財務活動による キャッシュ・フロー	△4,927	△16,363	+11,436
現金及び現金同等物 期末残高	15,919	23,198	△7,279

- ・営業活動CF**
 事業収益からの収入は増加したものの、運転資金需要も増加したことから、約3億円の収入。
- ・投資活動CF**
 投資有価証券の取得に係る支出などにより、約52億円の支出。
- ・財務活動CF**
 有利子負債の返済や配当金の支払いなどにより、約49億円の支出。

事業セグメント別の状況（連結）

売上高

	当期	前期	前期比
鉄鋼	811,096	718,170	+12.9%
金属原料	97,995	94,766	+3.4%
非鉄金属	77,511	73,273	+5.8%
食品	78,668	83,800	△6.1%
石油・化成品	499,043	444,280	+12.3%
報告セグメント計	1,564,315	1,414,291	+10.6%
その他	200,925	167,494	+20.0%
合計	1,765,241	1,581,786	+11.6%
調整額	△82,737	△70,461	△17.4%
PL計上額	1,682,503	1,511,324	+11.3%

セグメント利益

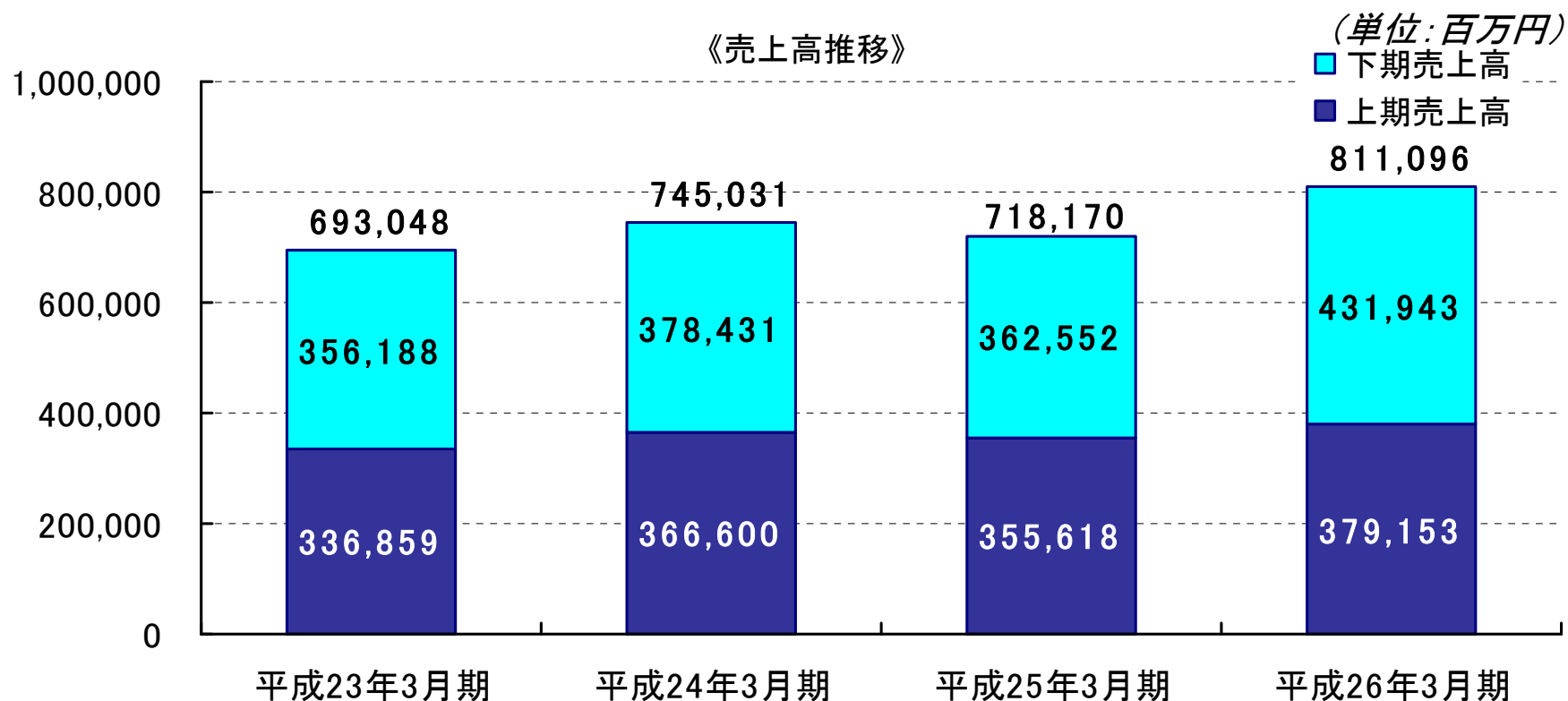
(単位:百万円)

	当期	前期	前期比
鉄鋼	13,879	9,598	+44.6%
金属原料	1,756	320	+448.8%
非鉄金属	835	686	+21.7%
食品	1,589	747	+112.7%
石油・化成品	1,925	1,673	+15.1%
報告セグメント計	19,986	13,026	+53.4%
その他	△262	1,222	—%
合計	19,724	14,248	+38.4%
調整額	△5,026	△5,377	+6.5%
PL計上額	14,698	8,871	+65.7%

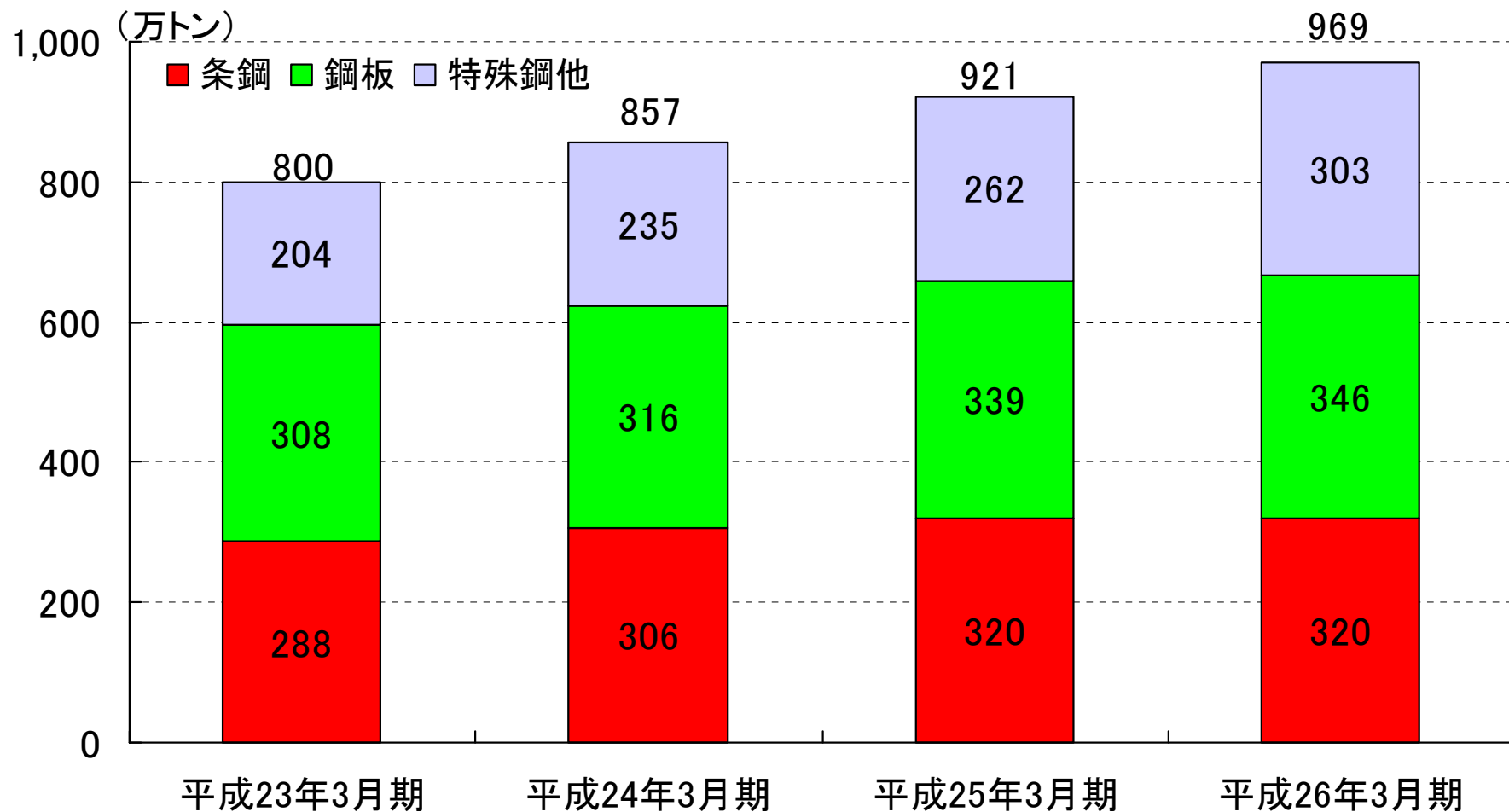
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当期	811,096	13,879	1.7%
前期	718,170	9,598	1.3%

堅調な製造業向けに加え、建設向け需要も民間物流・商業施設案件や復興・復旧需要、インフラ整備などの出件が増加。
市況も第2四半期に入って、再び上げ基調となったことから、在庫販売などでの採算が改善。

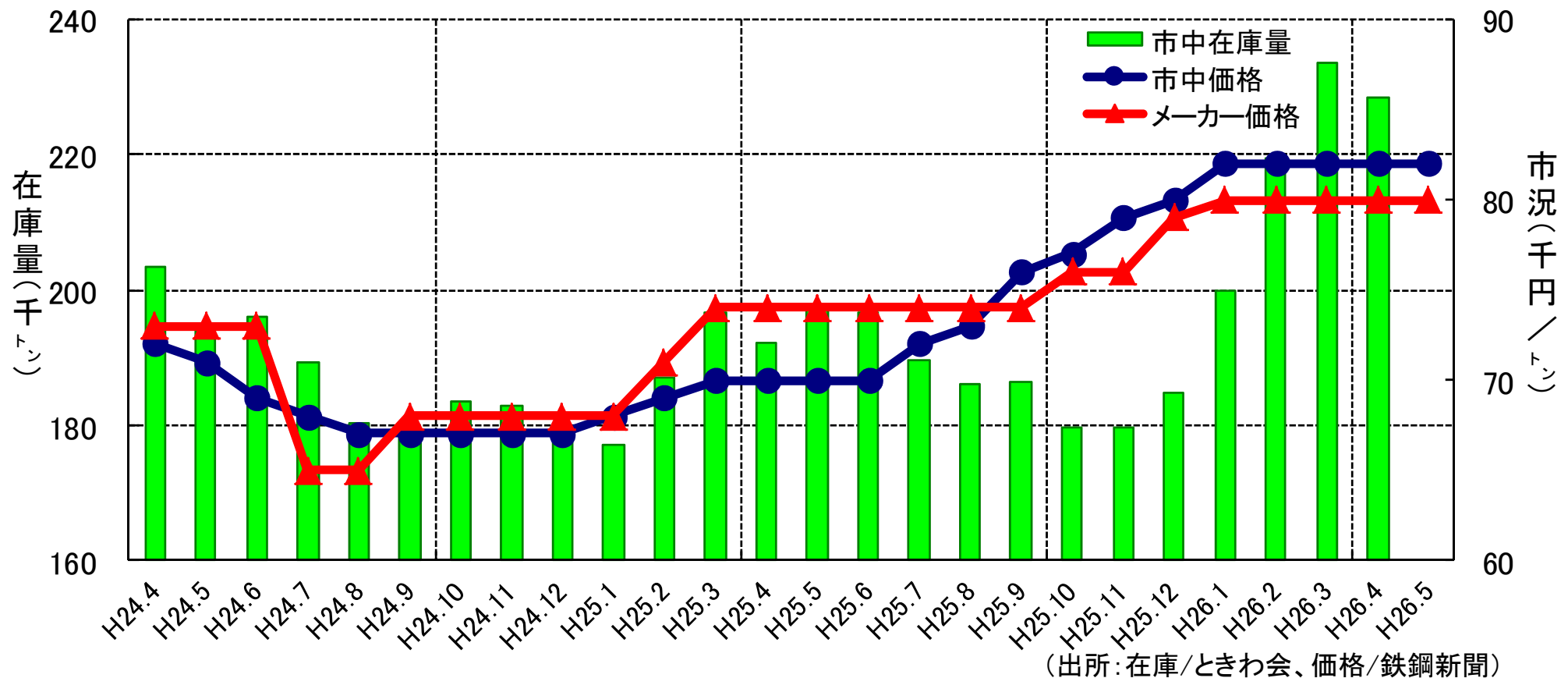


海外市況の低迷と高炉の国内向け中心の方針から輸出取扱いが28%減少したものの、国内向けは条鋼・鋼板共に増加、特に特殊鋼他に含まれている鉄スクラップの扱い増が寄与し、11%の増加に。



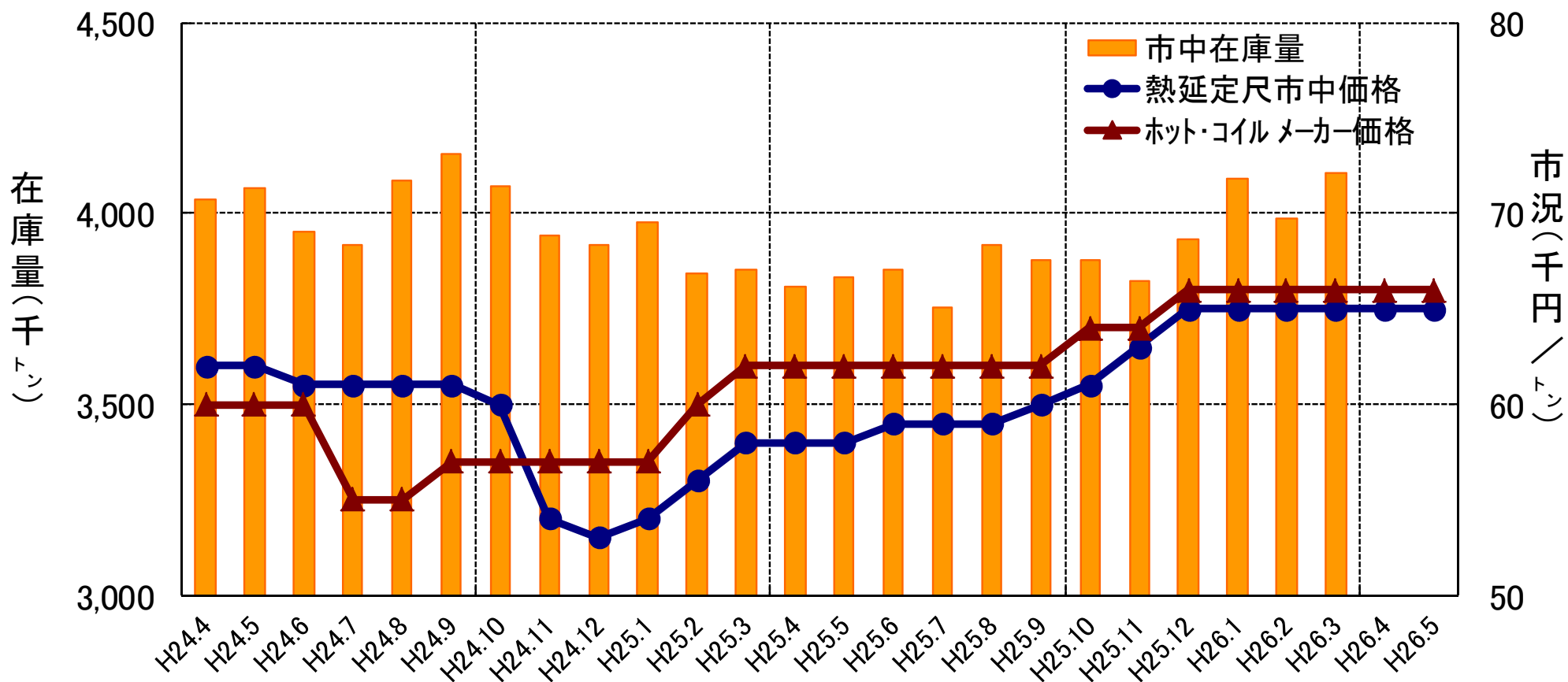
前第4四半期の市況上昇に伴う仮需の反動で、当第1四半期は市況停滞したが、第2四半期に入り、建設案件の増加によるロールのタイト化から、市況も底入れし上昇基調に。年が変わってからは、需要が一服し在庫増加により、市況も弱含みながら、横ばいを維持。

【H形鋼 市中在庫量と市況の推移】



製造業の稼働は堅調も、スポット市況は条鋼類に比して出遅れ感があったが、年度半ばから上期紐付き価格の上昇改定やロールのタイト化により、ようやく上昇。足元では需要の一服感、出荷の停滞から天井感が出ている。

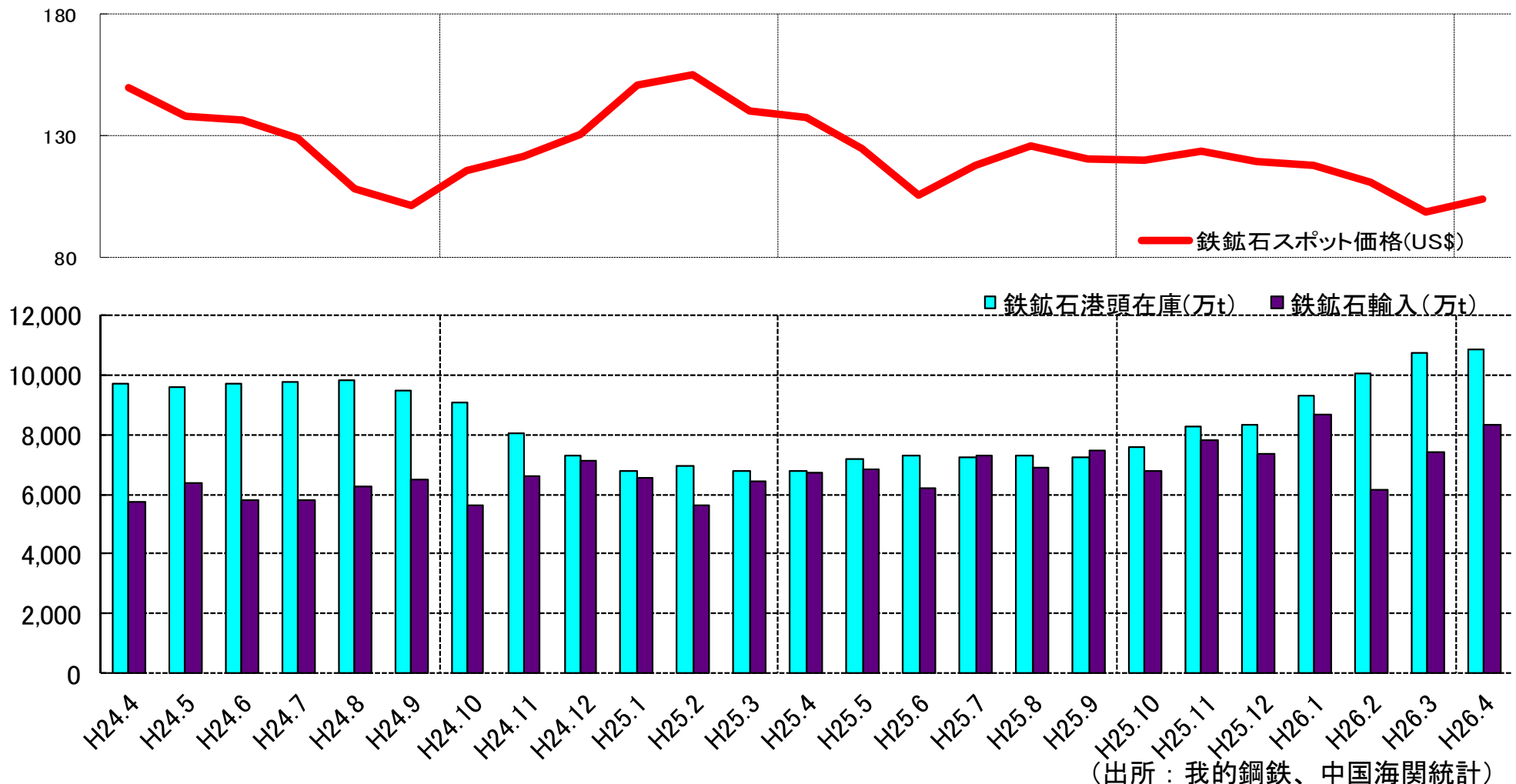
【薄板3品 市中在庫量と熱延鋼板市況の推移】



(出所:在庫/日本鉄鋼連盟、価格/鉄鋼新聞)

中国の輸入鉄鉱石市況は、夏場以降、景気テコ入れ期待から上昇し、しばらく横ばい推移だったが、春節明け以降再び弱い基調に。需要が低迷する中、高水準の輸入が続き、港頭在庫は大幅に増加。

【中国の鉄鉱石市場】

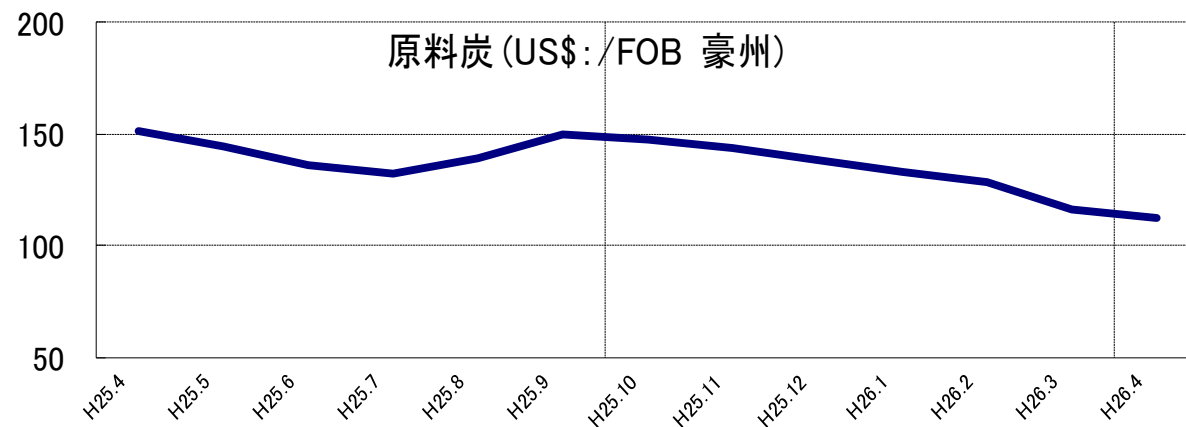


(出所：我的鋼鐵、中国海関統計)

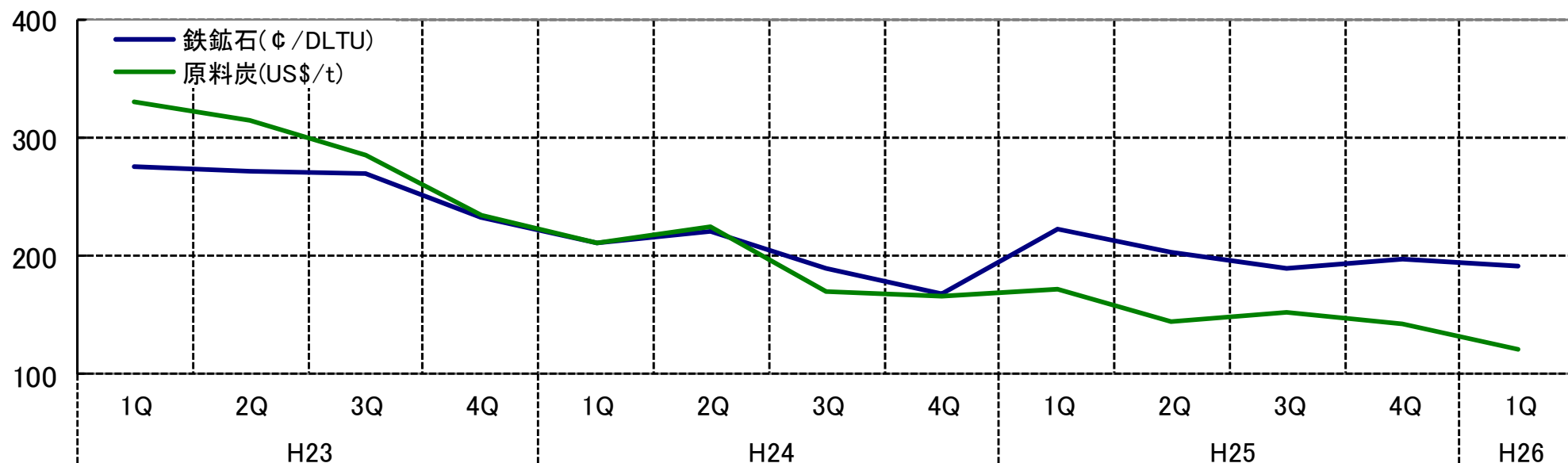
原料炭も夏場に景気テコ入れ期待で上昇したが、その後は下げ基調が継続。

今期の山元との契約価格は、第1四半期に上昇後、スポット市場の下げを反映して下落。

【原料炭価格の推移】



【山元と高炉メーカーとの契約価格】

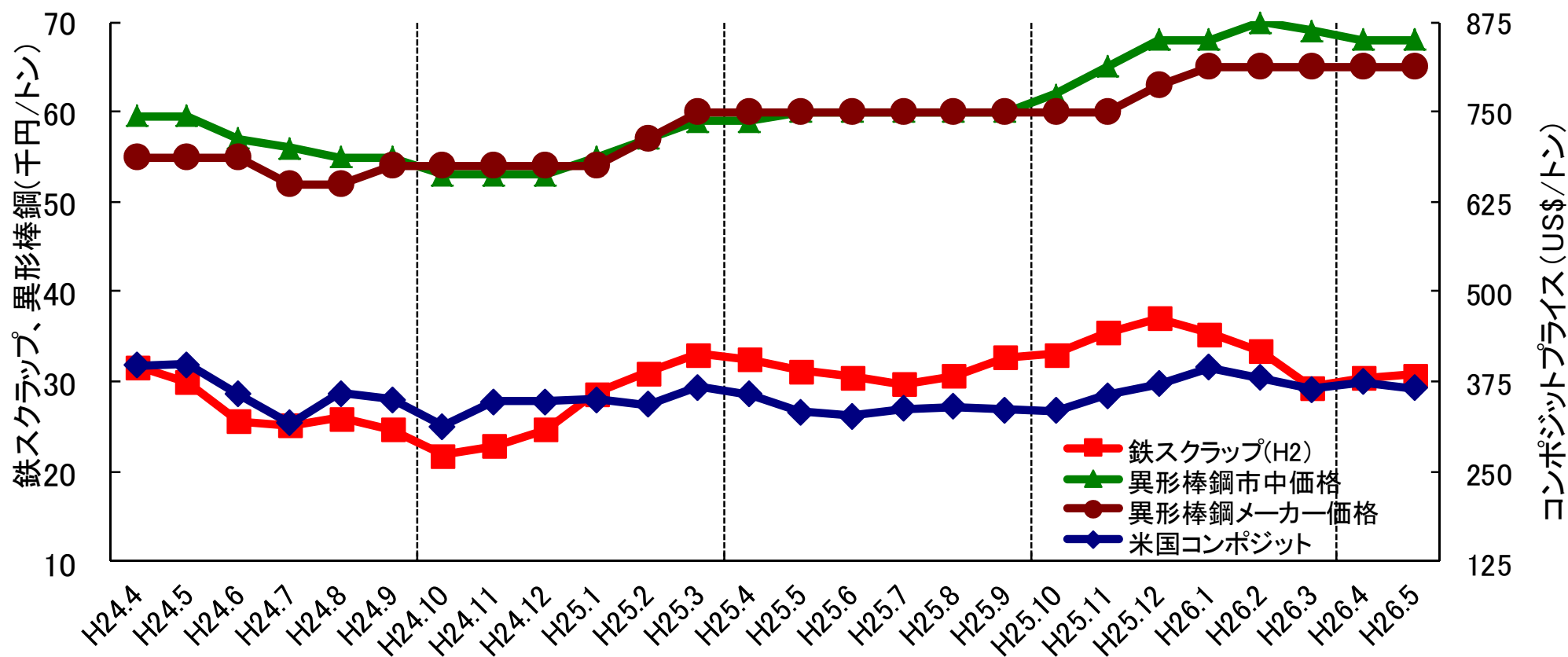


(出所:各種報道)

夏場以降の建設向け需要の増加により、国内屑の市況も上昇。年明け後、人不足から鋼材出荷が停滞したところに、豪雪による荷動きの低下や一部電炉の受け入れ減少により、反落。

一方、鉄筋市況は、今後の出件増を見越して横ばいで推移。

【鉄スクラップと異形棒鋼市況の推移】

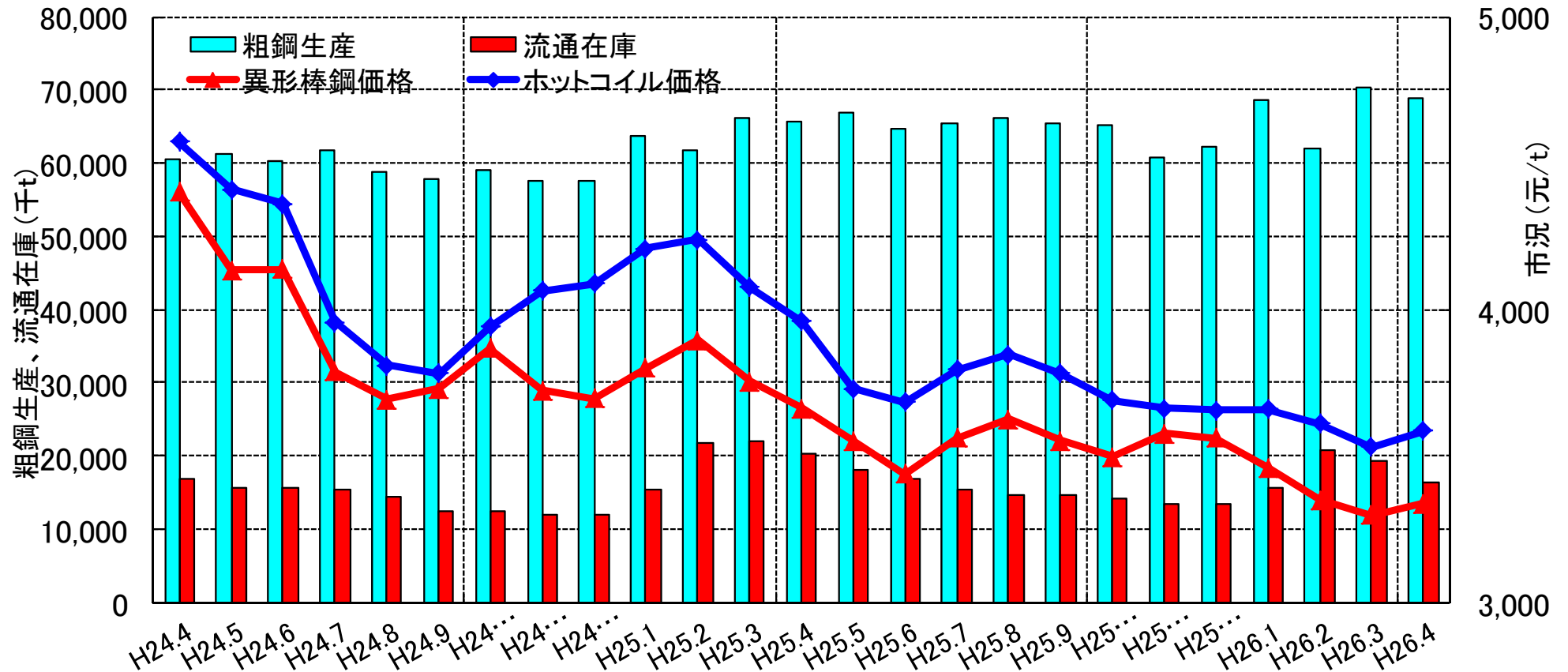


(出所: 日本鉄源協会 鉄鋼新聞)

需要が低迷する中でも、粗鋼生産は高水準にあり、生産調整が進んでいない。

景気テコ入れや春節後の需要増加を期待して、鋼材市況が上向く時期もあったが、目立った需要の増加もなく、弱い基調に。

【鉄鋼需給と鋼材市況の推移】

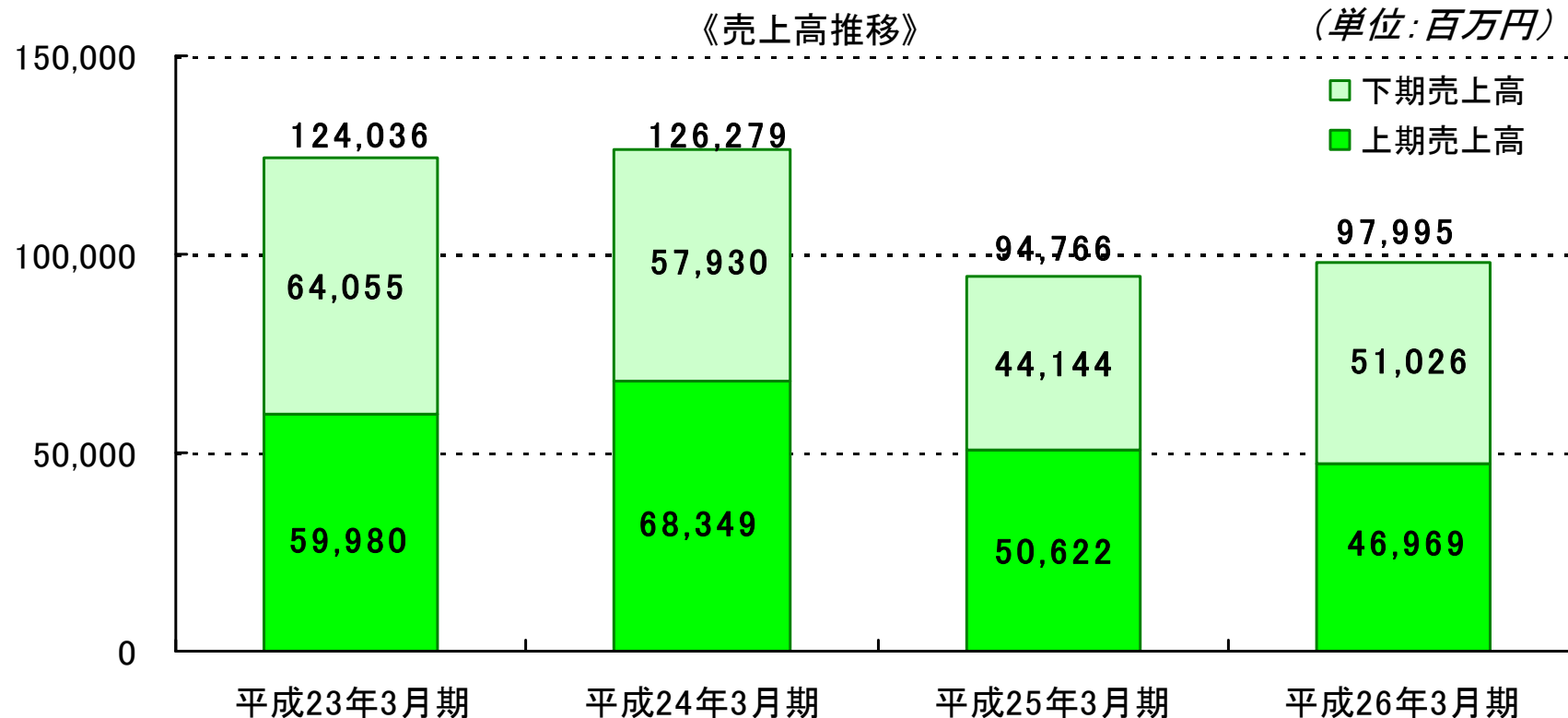


(出所: 日本鉄鋼連盟)

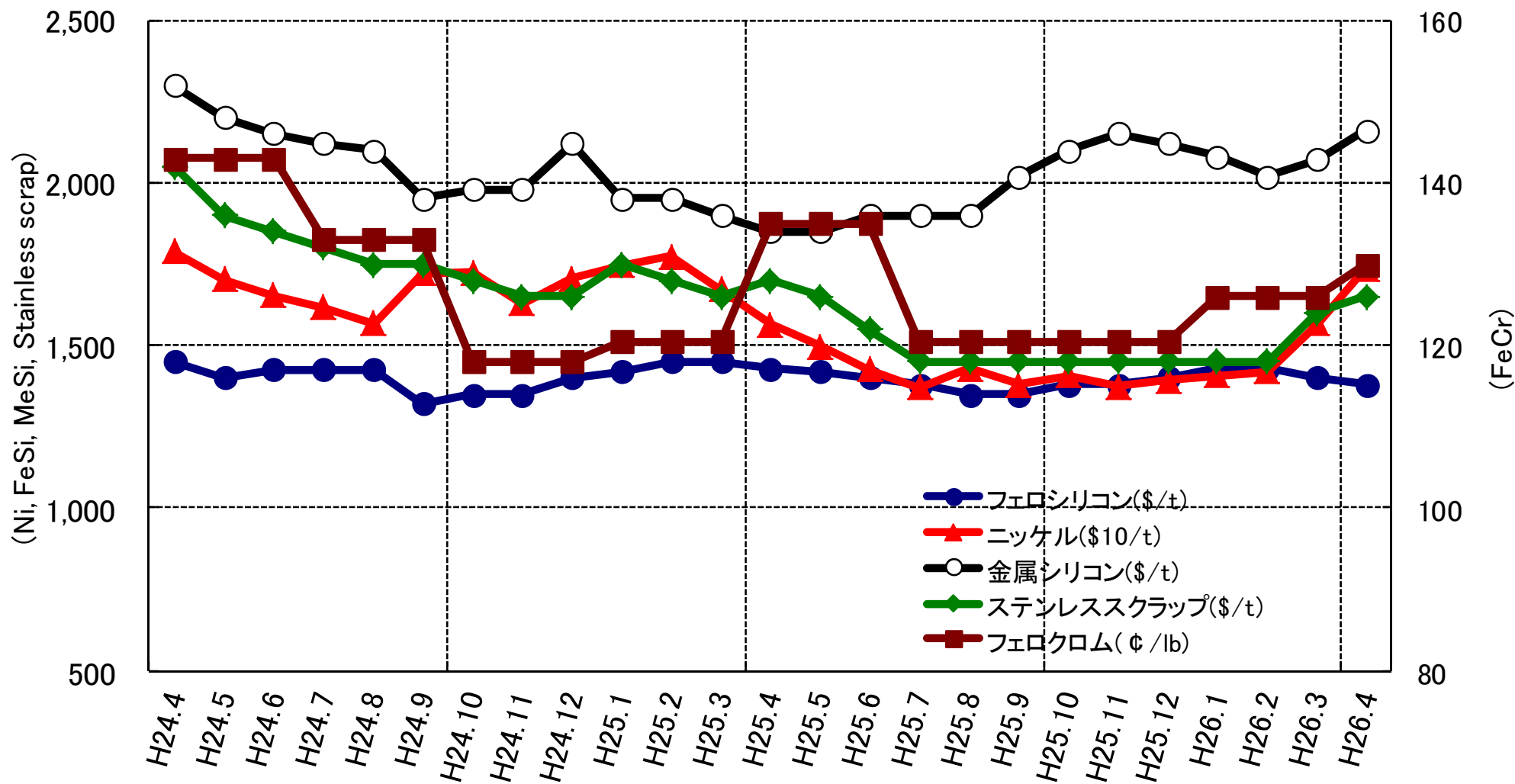
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当期	97,995	1,756	1.8%
前期	94,766	320	0.3%

ステンレス原料の需要は停滞が続いたものの、合金鉄の鉄鋼メーカー向け販売やニッケル化合物の取り扱いが増加。為替の円安方向への進行が小幅だったことで為替差損も減少し、利益を押し上げた。



国内ステンレスメーカーの生産水準は年度後半に回復したものの、世界需要は弱い基調が継続。ニッケルやステンレス屑などステンレス原料市況は弱い基調が続いた。足元では、インドネシアの鉱石禁輸やウクライナ問題を受けて、ニッケル市況は上昇。



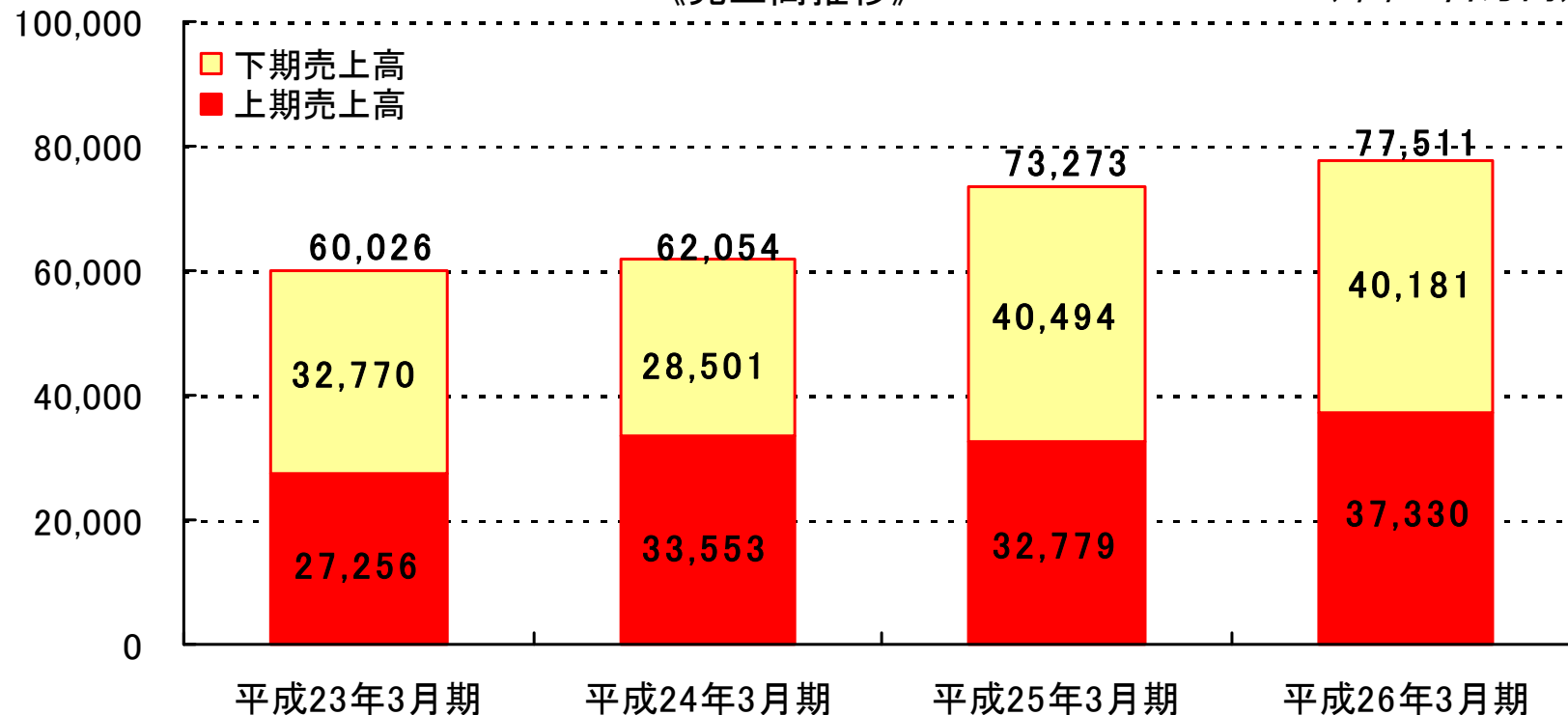
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当期	77,511	835	1.1%
前期	73,273	686	0.9%

LME価格は弱基調も、円安の影響で円ベースでは横ばい。低調なスクラップ発生による集荷コストの上昇のため、採算的には厳しい状況が続いているが、貴金属屑の取扱い増や為替差損の減少が収益に寄与した。

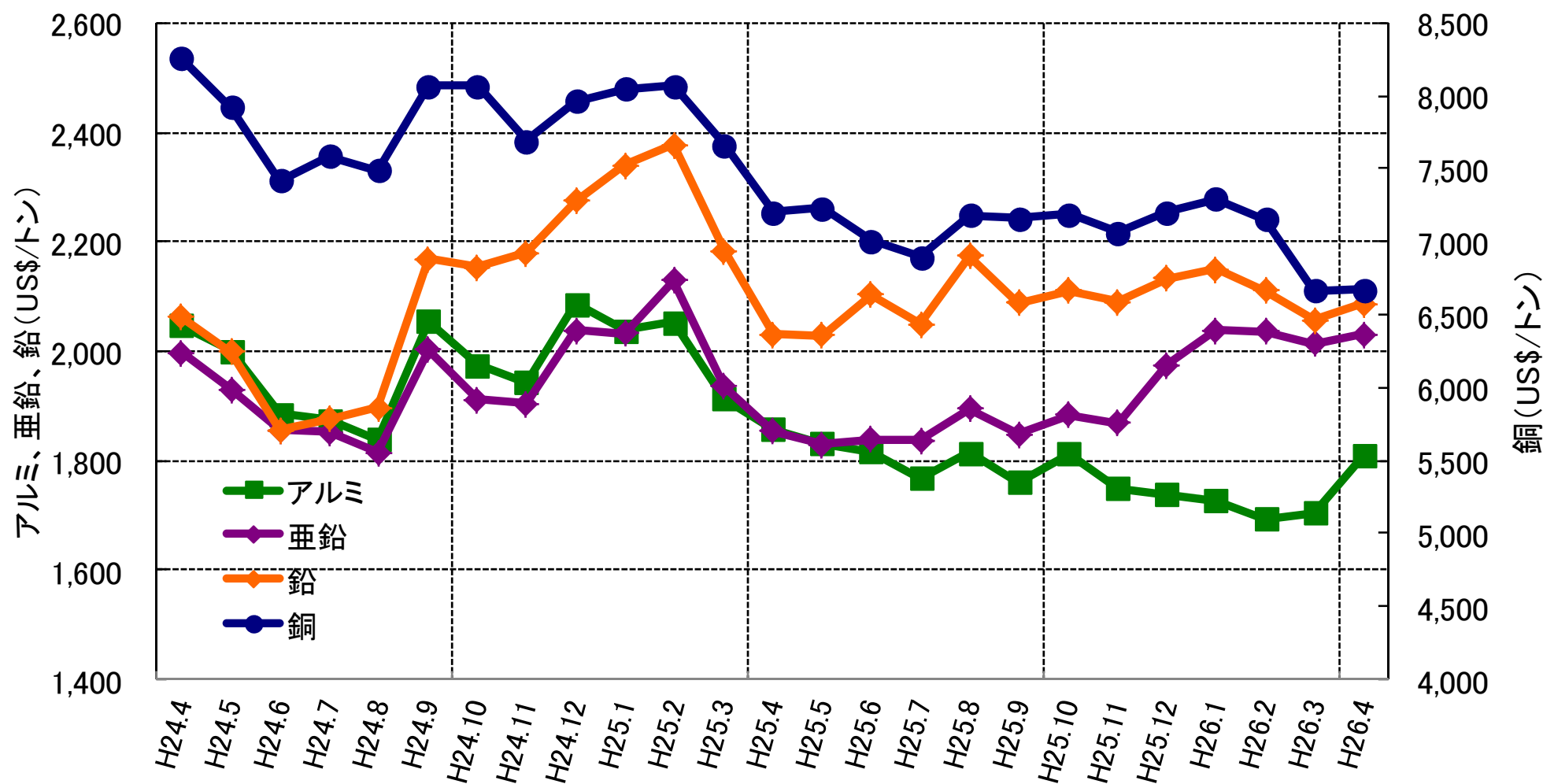
《売上高推移》

(単位:百万円)



LME価格は個別の経済トピックスに反応して上げ下げあるものの、全体的には軟調な推移。

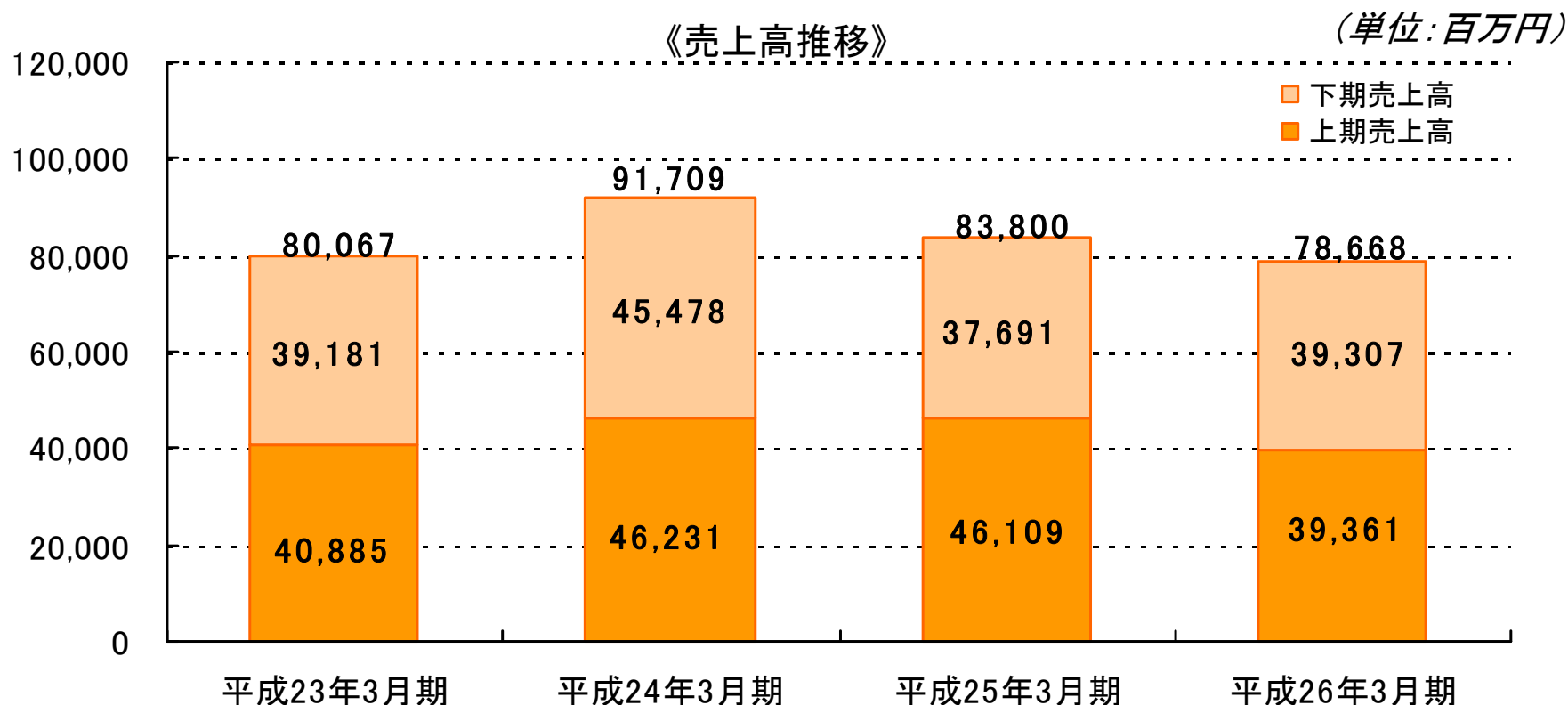
足元では中国需給の不透明感から、弱い基調で推移。



(単位:百万円)

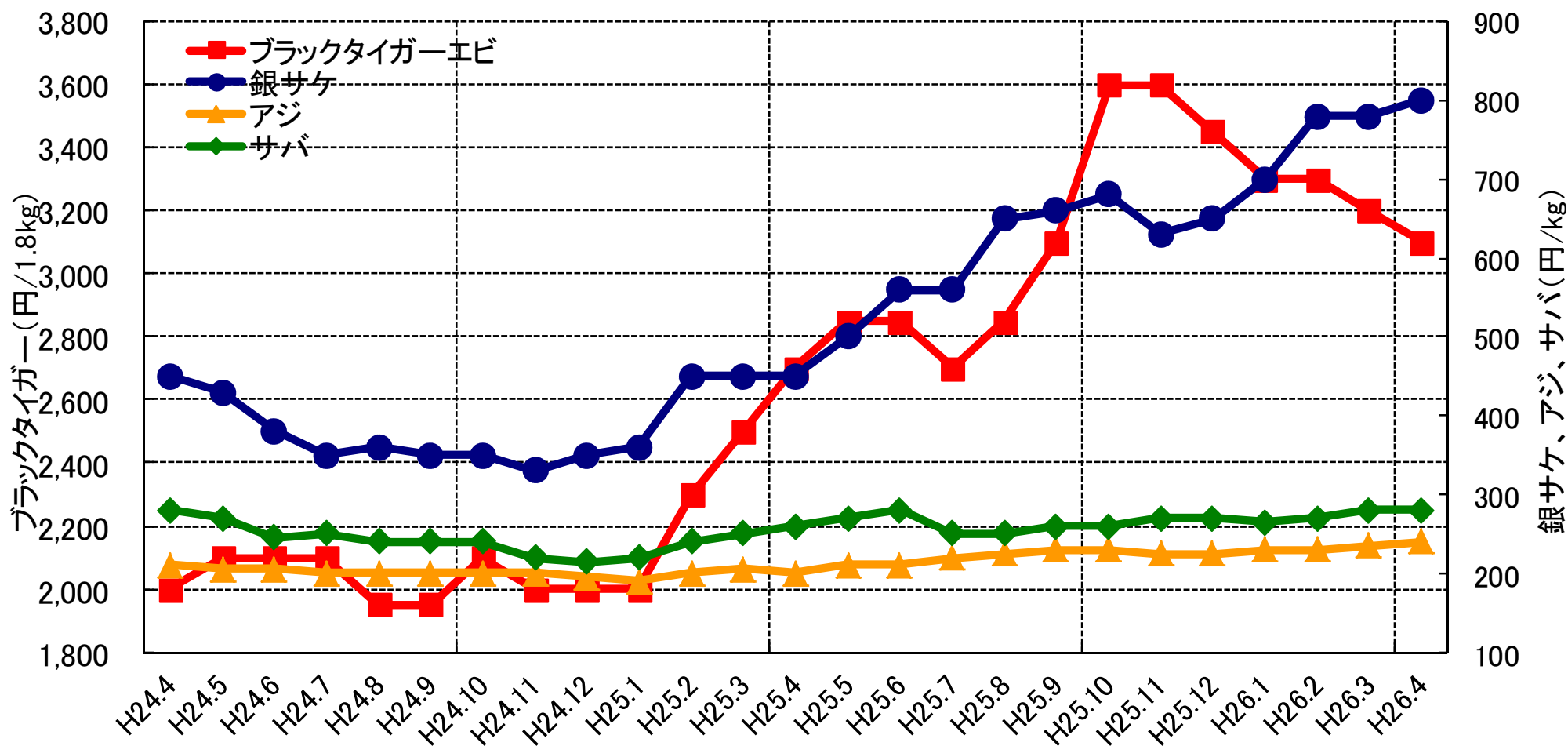
	売上高	セグメント利益	利益率
当期	78,668	1,589	2.0%
前期	83,800	747	0.9%

国内需要は依然として低調に推移したが、円安に転換したことで、暴落していた養殖サケや低位にあったエビ類の価格が反転し、採算が改善した。



円安基調への転換により、養殖サケの価格が今期に入って上げに転じると、現物の品薄もあり急騰。足元、新物の入着が遅れ、一段高に。

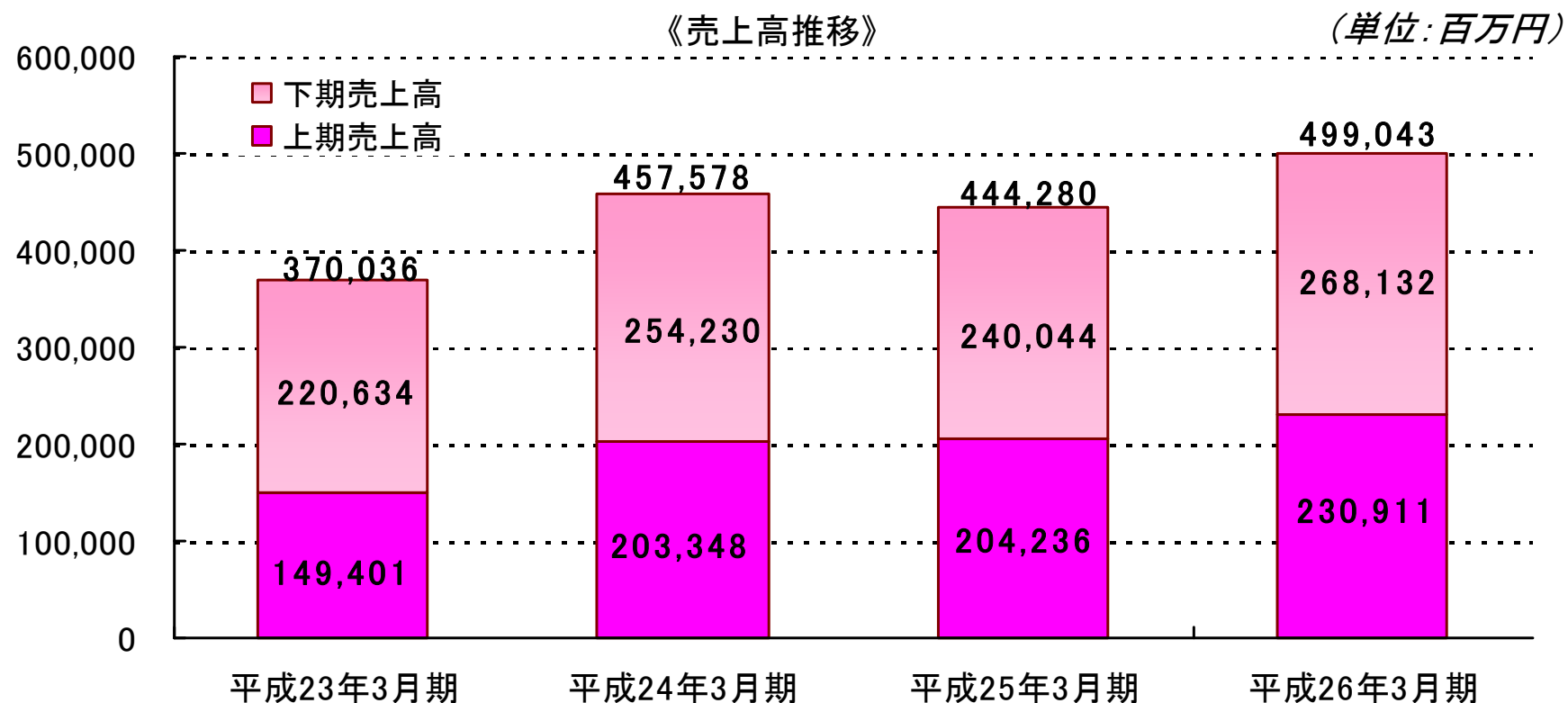
エビ価格も東南アジアでの養殖エビの病気発生により供給が激減し、暴騰したが、高値疲れで需要が減退し、足元では反落。



(単位:百万円)

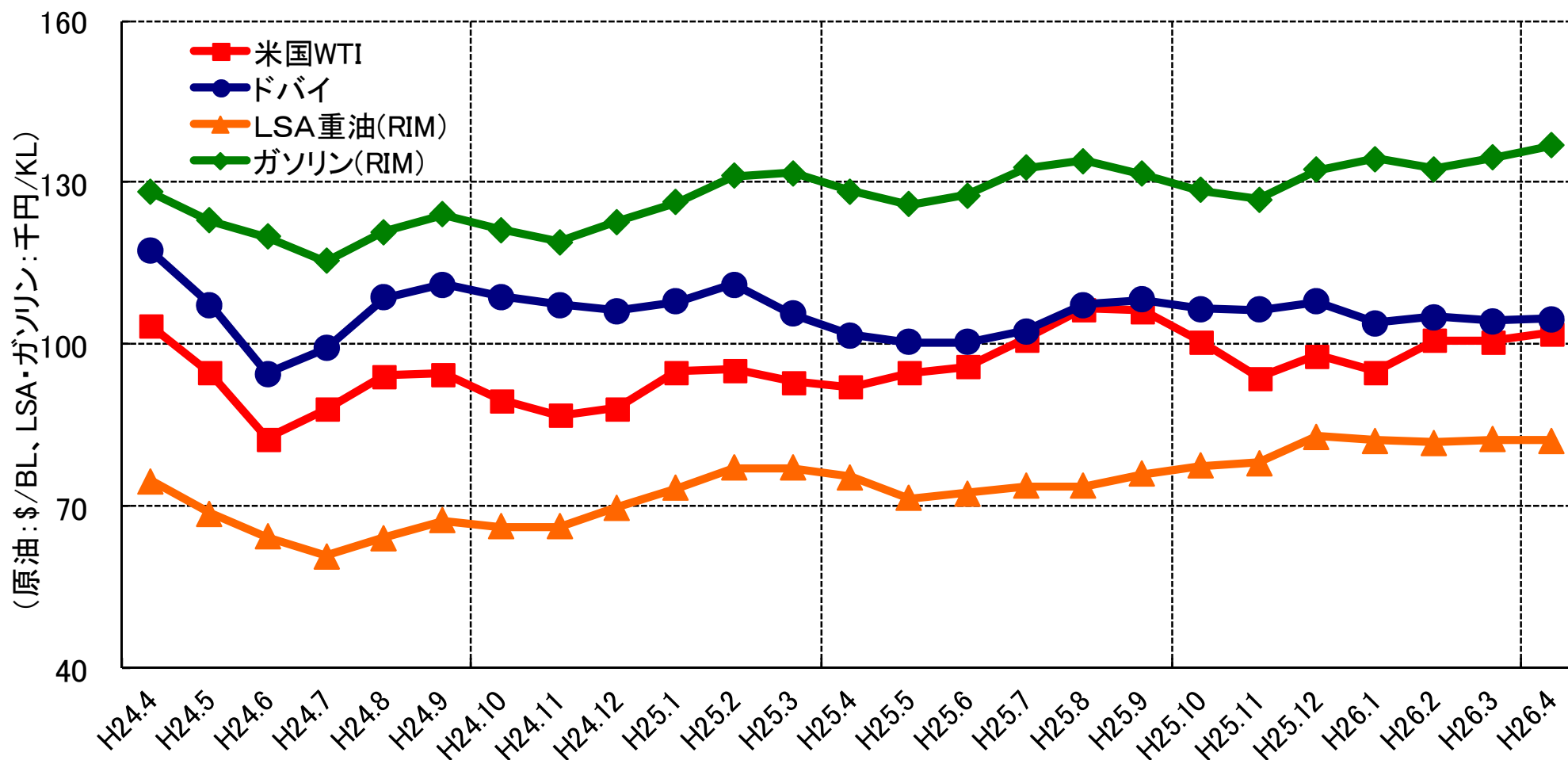
	売上高	セグメント利益	利益率
当期	499,043	1,925	0.4%
前期	444,280	1,673	0.4%

産業用燃料需要が低調に推移する中で末端の販売競争は激しく、採算面では厳しい環境となった。円安の影響により合成樹脂加工品の採算も低迷したが、ロシアや韓国など海外積みの船用石油販売を伸ばし、収益をカバーした。



原油価格は中東情勢や米国の財政問題などの影響を受けて一進一退の値動きに。足元は北米の寒波の影響などにより、底堅く推移。

石油製品市況は原油価格の高止まりや円安の影響で高い水準で推移。



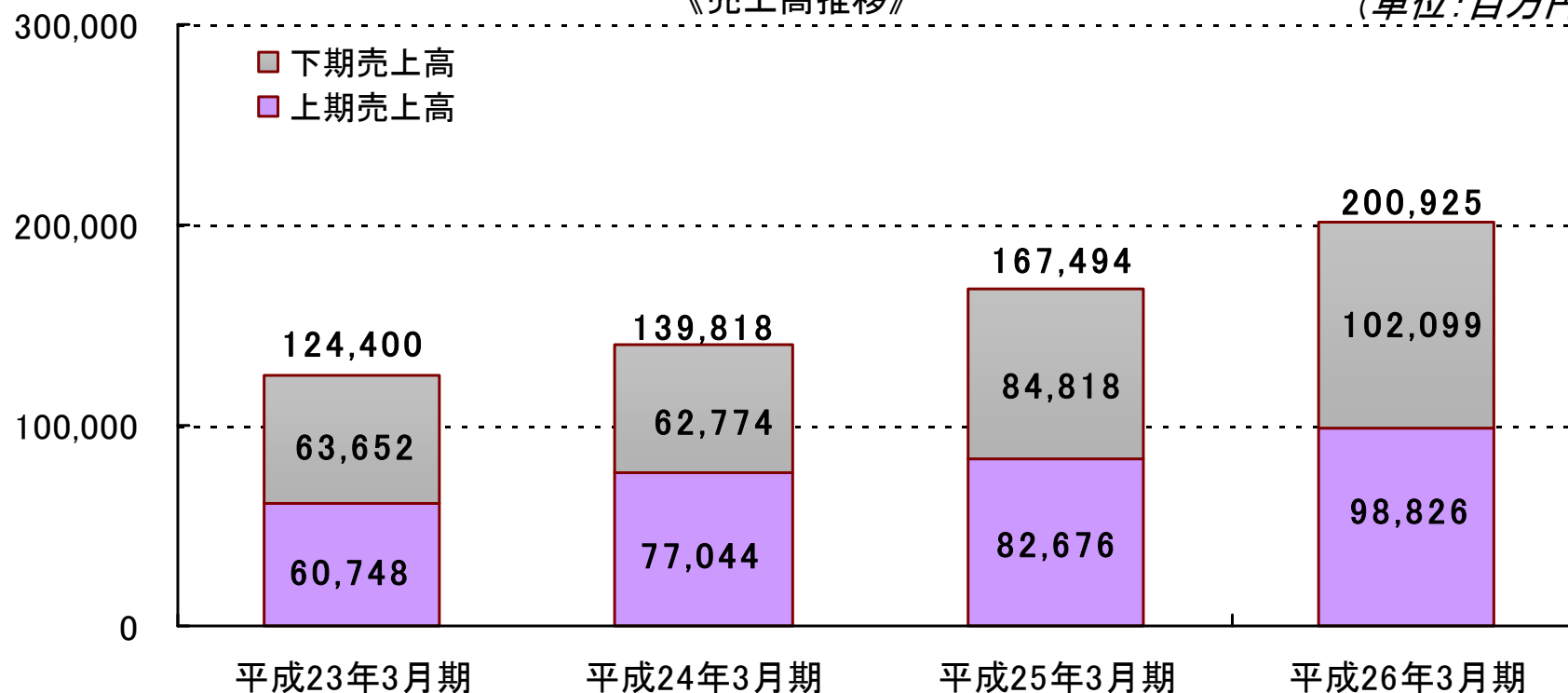
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当期	200,925	△262	△0.1%
前期	167,494	1,222	0.7%

木材事業での旺盛な住宅需要を反映した出荷の増加や海外販社の円安による円換算売上の上昇が売上増に寄与。一方、損益面ではHANWA SINGAPOREの非鉄事業を始めとする海外販社の不振や欧州産製材の供給過剰による木材市況の下落により低迷した。

《売上高推移》

(単位:百万円)



【国内事業の深耕】

機能強化のM&A・・・三栄金属 子会社化（H25年10月）

北陸コラム 子会社化（H25年11月）

事業投資の推進・・・中山製鋼所 出資（H25年8月）

イーレックス 出資（H25年12月）

【海外展開の強化】

海外拠点の拡充・・・チリ現地法人設立（H26年1月）

シカゴ事務所開設（H26年2月）

事業投資の推進・・・マレーシア/ TATT GIAP STEEL CENTRE 出資（H25年4月）

台湾/元大聯合鋼鐵 出資（H25年10月）

加工機能の強化・・・HANWA STEEL SERVICE MEXICANA 稼働開始（H25年10月）

PT.HANWA ROYAL METALS 営業開始（H25年4月）

平成27年3月期(通期)の連結業績予想

世界経済は中国始め新興国経済に停滞感があるが、国内経済は消費増税による消費減退が一部に見られるものの、政策効果が持続し、建設分野中心に堅調な推移が期待できる。

配当は中間配当6円、期末配当6円を実施予定。

(単位:百万円)

	平成27年3月期(予想)	平成26年3月期(実績)
売上高	1,750,000	1,682,503
営業利益	19,800	16,252
経常利益	17,500	14,698
当期純利益	10,600	7,896

	年間	中間	期末
1株当たり配当金	12円00銭	6円00銭	6円00銭

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。